

令和6年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①水産各分野の専門性の向上や探究心を高める教育に重点を置いた教育課程の編成や、主体的・協働的な学習活動の実施に組織的に取り組む。</p> <p>②生徒会活動や学校行事、水産クラブの研究発表などとおして、生徒の主体的な活動を推進するとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上を図る。</p>	<p>①水産各分野における地域と連携した研究活動や実習等とおして、生徒の主体的な活動の推進を図る。</p> <p>・協働的な学習を推進するため、教員のICT活用能力の育成を図る。</p> <p>②文化祭や体育的行事等の充実を図るとともに発表活動への主体的な取組みを支援し、生徒のコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>	<p>①・地域産業界や大学・研究機関と連携した実習や体験活動に取組み、学科改編完成年度として指導体制・内容の検証を行う。</p> <p>・研究授業、校内研究の充実によりICTを活用した指導を推進し、主体的・協働的な学びを充実させる。</p> <p>②文化・体育祭などの学校行事実施や水産クラブ等による発表活動が、生徒の主体的な取組みとなるように支援する。</p>	<p>①各学科の特徴を活かし、関連産業や関係機関と連携した実習等に取組むことができたか。</p> <p>・「生徒による授業評価」関連質問の肯定的回答の割合を高めることができたか。</p> <p>②特別活動の参加生徒が、主体的な活動とおして自己肯定感の高まりを実感することができたか。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>①生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。</p> <p>②部活動の活性化と生徒の主体的な取組みの充実を図り、自立性、協調性、豊かな人間性、望ましい社会性、健やかな体を育む。</p>	<p>①生徒個々に応じた支援が適切にできるようSCやSSW、外部機関を活用して教育相談体制を充実させる。</p> <p>②生徒が主体的に取り組めるよう、部活動内容の充実を図り活動の活性化を図る。</p>	<p>①生徒支援グループと学年の協力体制のもと、必要な生徒に対してSC・SSWや外部機関、ケース会議、サポートドック等を活用して適切な指導・支援を行う。</p> <p>②活動が活性化するように、活動日数や活動内容など個に応じた支援を行う。</p>	<p>①生徒支援グループと学年が連携して、生徒個々に応じた適切な支援を行うことができたか。また、SC・SSWや外部機関と連携して、生徒を支援することができたか。</p> <p>②部活動参加生徒が、主体的な取組みとおして自己肯定感の高まりを実感することができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	○生徒のキャリア発達を支援する進路指導を推進し、進路実現に向けて主体的に取り組む力を育む。	①海洋科学プロジェクトによる3年間を見通した進路指導体制の確立を図る。 ②各学科においてインターンシップや職場見学会などの参加率を向上させ、生徒の適切な勤労観、職業観を育成する。	①進路支援グループと学年・学科が連携し、進路支援を年間計画に沿って実施する。 ②各学科の特徴に応じたインターンシップや職場見学会などの進路支援事業を推進する。	①進路実現に向けて主体的に取り組むことができたか。 ②各学科においてインターンシップや職場見学会等が計画され、参加率を高めることができたか。
4	地域等との協働	①教職員一人ひとりが創意工夫し、学校の魅力を開発・発信し、海洋学習センター機能を充実・発展させる。 ②地域や水産・海洋関連産業、関係機関・大学等との連携・協働を推進し、地域に信頼され、必要とされる開かれた学校づくりを推進する。	①海洋学習センター機能の充実・発展を図り、本校の教育資源を活用した取り組みを推進する。 ・学校ホームページ等を充実させ本校教育活動を積極的に発信する。 ②地域との協働を推進させるため、産・官・学の連携事業を充実・発展させ、地域から信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。	①・学校の人的・物的資源を活用し、小・中学生や県民を対象とした出前授業・体験講座を計画する。 ・学校ホームページやSNS等を活用し、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。 ②各学科毎の特徴に応じた連携・協働事業を継続的に実施する。	①海洋学習センター機能やSNSによる情報発信の取り組みの成果があったか。 ②地域や産・官・学との連携・協働事業を推進することができたか。
5	学校管理 学校運営	①全ての教職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 ②教職員の働き方改革を推進するための意識改革を図り、職員が職場環境等の様々な変化に柔軟に対応できる組織づくりを進める。	①学科運営のあり方等、教育環境の諸課題の解決に全教職員で取り組む。 ②教職員の働き方に対する意識改革を図り、業務の精選や業務分担の適正化などの業務改善を行う。	①学科改編完成年度として海洋科学プロジェクトの確実な実践に、全職員が一丸となって取り組む。 ②業務の見直しと職員の役割分担の適正化をすすめ、併せて校務のデジタル化を推進する。	①海洋科学プロジェクトに基づいた実践ができたか。 ②業務の見直しやデジタル化の推進により、時間外勤務の削減ができたか。